

なぜ社会民主主義者となのか

——自覚した労働者は、社会主義的闘争のために民主主義的闘争をわすれたり、あるいは民主主義的闘争のために社会主義的闘争をわすれたりしてよいであろうか？ いや、自覚した労働者は、この二つの闘争の関係を理解したからこそ、みずから社会民主主義者と名のっているのである。彼らは、民主主義を経る以外には、政治的自由を経る以外には、社会主義へいたる道はほかにはないことを、知っている。だから彼らは、終局の目標である社会主義を達成するために、民主主義の完全な、徹底的な実現をめがけて努力するのである。だが、なぜ民主主義的闘争の条件と、社会主義的闘争の条件とは、同じでないのか？ なぜなら、この二つの闘争では、労働者はかならずちがった同盟者をもつことになるからである。民主主義的闘争を、労働者は、ブルジョアジー、とくに小ブルジョアジーの一部といっしょに行う。だが、社会主義的闘争を労働者は、ブルジョアジー全体に反対して行う。官吏や地主との闘争は、富裕な農民や中農さえもふくめて農民全体とともに行うことができるし、また行わなければならない。だが、ブルジョアジーとの、つまり、また富裕な農民との闘争は、ただ農村プロレタリアートと共同してだけ確実に行うことができるのである。

もし、マルクス主義のこれらすべての初歩的な真理をおもいおこすなら——社会革命派はつねにこれらの真理の検討を避けるほうをこのむのであるが——、マルクス主義に反対する彼らのつぎのような「最新の」反論を評価することは、われわれにとってもはやたやすいことであろう。

『レヴオリュツィオンナヤ・ロシア』（第七五号）はつぎのようにわめいている。「なぜ一気に地主に反対してプロレタリアートを支持するようにしないで、はじめには地主に反対して農民一般を支持し、つぎに（すなわち同時に）農民一般に反対してプロレタリアートを支持することが必要なのか。いったいマルクス主義がこれになんの関係があるのか——アラーの神のみぞ知りたもうである」と。

これは、もっとも原始的な、子供のように素朴な無政府主義の見地である。ありとあらゆる搾取を「一気に」廃絶するということは、すでにとの昔から、幾世紀ものあいだ、いや幾千年ものあいだ、人類が夢みてきたところである。しかし、こうした夢想は、幾百万の被搾取者が全世界にわたって団結して、資本主義社会を、この社会の本来の発展の方向にそって変えるために、持久的に、ねばりづよく、全面的に闘争するようになるまでは、依然として夢想の範囲を出なかった。社会主義の夢想は、マルクスの科学的社会主義が改造への志向を特定の一階級の闘争と結びつけたときにはじめて、幾百万の人々の社会主義的闘争に転化したのである。階級闘争をはなれては、社会主義は空虚な文句かおめでたい夢想かのどちらかである。ところで、わがロシアではわれわれは、二つの異なる社会勢力のおこなう二つの異なる闘争を見ている。プロレタリアートは、資本主義的生産関係が存在するところではどこでも、ブルジョアジーに反対してたたかっている（そして、わが社会革命派のご参考までに言うておけば、資本主義的生産関係は、農民共同体の内部にも、すなわち、彼らの見地からすればもっとも「社会化」された土地にも、存在している）。小土地所有者、すなわち小ブルジョアの層としての農民は、農奴制のあらゆる残存物に反

対し、官吏と地主に反対してたたかっている。これらの二つの異なる、別種の社会戦争があることを見ずにいられるのは、経済学と全世界の革命史とをまったく知らない人々だけである。「一気に」という言葉をつかってこれらの戦争の種類の違いに目を閉じることは、頭を翼のかげにかくして、現実にたいするいっさいの分析を拒否するということである。

第9巻 P470~471「小ブルジョア社会主義とプロレタリア社会主義」
『プロレタリー』第24号、1905年11月7日（10月25日）

ポイント

自覚した労働者は、社会主義的闘争のために民主主義的闘争をわすれたり、あるいは民主主義的闘争のために社会主義的闘争をわすれたりしてよいであろうか？ いや、自覚した労働者は、この二つの闘争の関係を理解したからこそ、みずから社会民主主義者と名をのっているのである。階級闘争をはなれては、社会主義は空虚な文句かおめでたい夢想かのどちらかである。

われわれは、二つの異なる社会勢力のおこなう二つの異なる闘争を見ている。プロレタリアートは、資本主義的生産関係が存在するところではどこでも、ブルジョアジーに反対してたたかっている。小土地所有者、すなわち小ブルジョアの層としての農民は、農奴制のあらゆる残存物に反対し、官吏と地主に反対してたたかっている。

これらの二つの異なる、別種の社会戦争があることを見ずにいられるのは、経済学と全世界の革命史とをまったく知らない人々だけである。